（C）日刊スポーツ新聞社

2014.7.23→2020.7.24

◆五輪メダリスト物語◆ 鶴見修治（つるみしゅうじ）64年東京大会体操男子団体総合金・ローマ大会に続き団体金メダルに貢献。個人総合と種目別の平行棒、あん馬では銅メダルを獲得した現役指導者として活躍。現在は日本オリンピアンズ協会副会長。レイアウト＝青柳和也

次回25日（水）アーチェリーで東京狙うブラジル原住民

元テレビ朝日アナウンサー

2020年東京五輪へ 300人リレーコラム 94人目 題字は北京冬季五輪

龍円 愛梨（39）

スペシャルニーズがある人たちのために人生をささげることを決意しました。私の長男（3）には発作があり筋力が弱いです。言葉の発達の遅れや筋力が弱いために、成長はゆっくりですが、好奇心旺盛な楽しい子です。

13年5月に米国で出産し、昨年5月に一時帰国しました。米国は日本に比べて、特別支援が必要な子と親に対する育児環境が充実しています。長男には生後1カ月から専属の療育チームが組まれ、療育プランが立てられました。手話を300ぐらい覚え、意思疎通ができるようになりました。一方、今住んでいる地域では、月1時間公的な療育が提供されるだけです。米国のようなサポートはないため、昨年11月からダウン症の子と親へ向けたコミュニティー教室を開催し、米国で実践して良かったと思った、特別支援教育や情報を共有しています。

日本は他と一違う」ことに関して、もう少し寛容であってほしいと考えています。ある集会で長男を紹介したところ、目を伏せられました。「指差しされるのは、慣れているつもりでしたが、とても悲しくなりました。長男はかわいそうな子ではなく、他の子と同じくらい幸せな家族に恵まれています。長男のことを見て、知って、嬉しがってもらえる存在になれるとうれしくなります